

様式 1

完了報告書（平成 25 年度）

提出者 上田 彩季

提出年月日 2014 年 3 月 15 日

【プロジェクト名】

和文

インド・オディシャ州における伝統銀線細工フィリグリー
ーソーシャル・ビジネスの可能性における実践的研究ー

英文

Traditional Silver-Filigree Work in Odisha, India:

A Practical Study of Social Business and Its Possibilities

【メンバー構成】

研究代表者 上田彩季

幹事

メンバー

【研究のねらいと目的】 (600 字程度)

ソーシャル・ビジネスとは、『ビジネスを通じて社会的課題の解決に取り組むこと』と定義されている。また、途上国の主要な課題は貧困であるが、内発的かつ持続的な発展のためには経済活動への地域住民の主体的な取り組みも必要である。そのためには、地域住民の持つ知識・技術を活かした経済活動の可能性を模索せねばならない。そこで貧困の解決に向けて、伝統工芸品を有用な文化資源として構築するための方法としてソーシャル・ビジネスが応用できるのではないか。従って本研究では、伝統工芸品の商品化を通じたソーシャル・ビジネスの可能性を検討し、それが持続的に成功するための条件を考察する。事例として、インド・オディシャ州に伝わる伝統銀線細工フィリグリーを挙げる。研究方法として、オディシャ州においてフィリグリー職人や現地の人々に対する聞き取り調査に加えて、フィリグリーの国際商品化を目指したソーシャル・ビジネスの実践と、同じオディシャ州の工芸品であるブラスビーズを国際商品化した事例を挙げて、両ビジネスモデルの比較を行った。

【活動の記録】

- ・【セミナー発表】上田彩季、『アートフェス ODISHA BIENNALE IN HIYOSHI』、慶応義塾大学 日吉キャンパス、2014 年 2 月 8 日、『インド・オディシャ州における伝統銀線細工フィリグリー ーソーシャル・ビジネスの可能性に関する実践的研究ー』
- ・【セミナー企画】上田彩季、『インドに魅せられて』、京都大学稲盛財団記念館、2014 年 2 月 13 日、『インド・オディシャ州における伝統銀線細工フィリグリー ーソーシャル・ビジネスの可能性に関する実践的研究ー』

【成果の概要】（800字程度）

これまでの報告者の研究においてソーシャル・ビジネスの重要な効果として、以下の2点が明らかになった。①フィリグリー職人が海外NGO等などの外部のネットワークと繋がることによってフィリグリーのデザインが活性化されていること。②職人が自分のクリエイティビティを發揮しながら働ける可能性があること。

そこで、本プロジェクトでは、ソーシャル・ビジネスによって作られた伝統的ではないデザインのフィリグリーが日本の市場に受け入れられるかどうか検討した。方法としては、インド・オディシャ州の文化が体感できるセミナーを企画し、伝統工芸品の展示のコーナーにフィリグリーを展示し、来場者の反応を観察した。以下はセミナーの概要である。

【テーマ】：『インド・オディシャ州の伝統とその変容』

【開催場所】：慶応大学，京都大学

【目的】：

- ①インドの伝統文化について理解を深めてもらう
- ②インドの伝統文化が日本の現代アートにどのように取り入れられているか知ってもらう
- ③日本でフィリグリーの需要があるか観察する

【企画内容】：

- ①インドの伝統舞踊とコンテンポラリーダンスの公演
- ②インド舞踊のワークショップ
- ③インドの伝統工芸品を用いた展示を開催
- ④フィリグリーの研究の紹介

【来場者数】：慶応大学：約100人，京都大学：30人

【成果】：学生に対してインドの文化に触れるきっかけをつくることができた。また、展示を行うことによってフィリグリーのアクセサリーに興味を持つ人や、ソーシャル・ビジネス自体に興味を持つ人から直接さまざまな意見を聞くことが出来た。今後、フィリグリーを販売する方法としては、ただお店に置くのではなく、このような展示やセミナーを通して消費者の方にフィリグリーを説明しながら販売するのが有効だと実感した。

【研究業績】

・【セミナー発表】 上田彩季，『アートフェス ODISHA BIENNALE IN HIYOSHI』，慶応義塾大学 日吉キャンパス，2014年2月8日，『インド・オディシャ州における伝統銀線細工フィリグリー —ソーシャル・ビジネスの可能性に関する実践的研究—』

・【セミナー企画】 上田彩季，『インドに魅せられて』，京都大学稲盛財団記念館，2014年2月13日，『インド・オディシャ州における伝統銀線細工フィリグリー —ソーシャル・ビジネスの可能性に関する実践的研究—』

・【フィールドワーク】

第1回調査：2012年7月15日～2012年10月15日

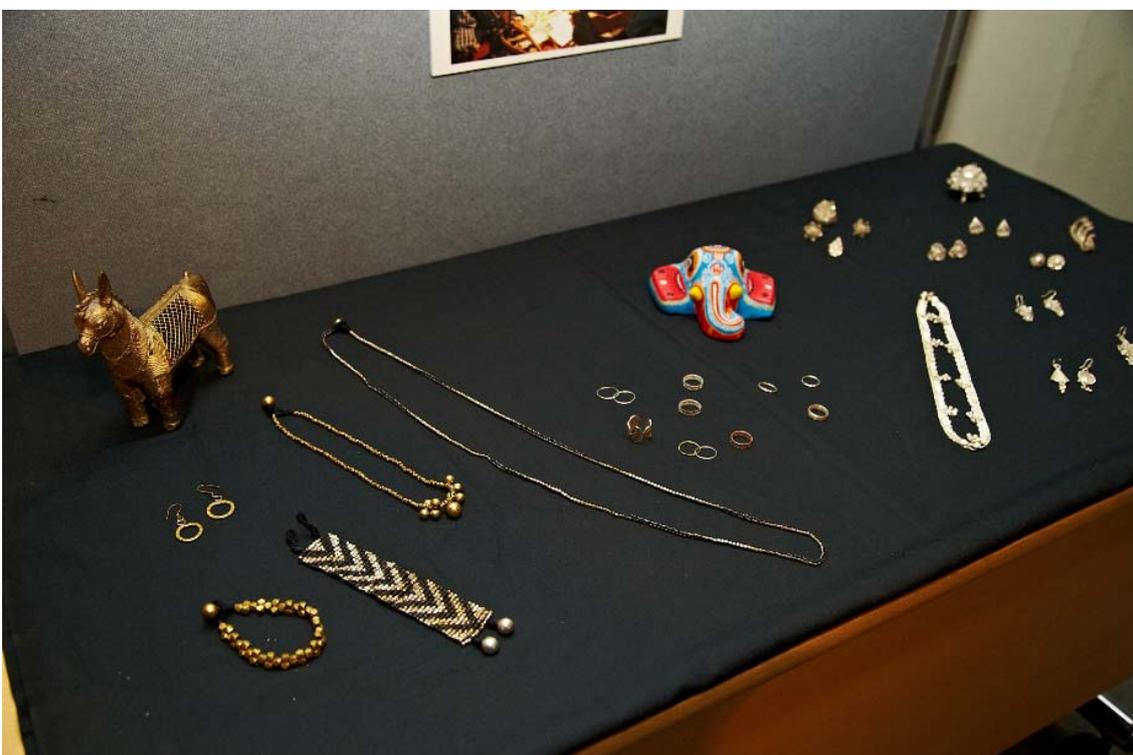
第2回調査：2012年11月23日～2013年1月1日

第3回調査：2013年8月1日～2013年10月10日

【通信欄】



写真①：伝統工芸品の展示会場の様子



写真②：フィリグリーの展示